

04

April
2026

[月刊] キリスト教書評誌

本の ひろば

HON-NO-HIROBA



ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター
1957年7月17日第三種郵便物認可
2026年4月1日発行(毎月一回1日発行)
第820号

出会い・本・人

女性のための本屋 小松加代子

特集シリーズこの三冊!

生きることを日常生活から考えるエッセーなら、この三冊!
望月麻生

本・批評と紹介

M・L・ベッカー著／加納和寛訳

総説 キリスト教神学 芦名定道

日本キリスト改革派教会訳

ウエストミンスター信仰規準 藤掛順一

上田光正著

バルト神学への道しるべ 井ノ川勝

大宮有博著

キリスト教シオニズムとは何か 中野真紀子

濱 和弘著

傘の神学Ⅱ 特殊啓示論 梅澤弓子

マイスター・エックハルト著／阿部善彦訳

教導講話 石井砂母亜

ポーラ・グッダー著／中原康貴訳

私を遣わしてください 古本みさ

崔 炳一著

植村正久と日本の教会 岡部一興

M・ノート著／山吉智久訳

イスラエル十二部族の制度 宮崎 薫

◆ 既刊案内

◆ 書店案内

ビリー・グラハム ひとりの魂と向き合った伝道者
グラント・ワッカー著／相川裕亮、田中稔十訳
3月25日

大群衆に獅子吼する大衆説教者。冷戦期に歴代大統領に影響を与えた祭司的預言者。だが実像はひとりひとりの魂に向き合おうとした伝道者ではなかったか。複雑な素顔に迫った最新評伝。 四六判・定価5390円



帝国の神道とキリスト教

3月25日

洪伊杓著 近代日本のキリスト者における神道理解と社会思想

キリスト教と神道との融合を図った海老名弾正の思想とその影響を丹念に辿った思想史研究の労作であると共に、現代日本のキリスト者もお神道とどのような関係を経るべきかについて決断を迫られていることを突きつける問題提起の書でもある。 A5判・定価7700円

排斥と抱擁

アイデンティティ・他者性・和解の神学

大反響

ミロスラフ・ヴオルフ著／彦田理矢子訳 異質な者を憎悪し排斥する者を、愛し抱擁することなどできるのか。凄惨な旧ユーゴ内戦を経験した著者は、罪と赦しの問題を、幅広い論客と対話しつつ十字架の神学に基づいて徹底的に考え抜く。 A5判・定価7920円

聖書翻訳と宣教

日本語訳聖書関連資料の研究

吉田新著 日本語訳聖書は口語体から文語体、そして再び口語体へと変化していった。本書はこの文体の変遷に注目し、膨大な資料に基づいて先人の労苦の跡を辿り、狭義の言語論を超えて宣教論の観点から新たな翻訳論を切り拓く。 A5判・定価6600円

新しいパウロ

パウロの何が新しくなったのか？

N・T・ライト著／前川裕訳 パウロは、ユダヤ教の唯一の神信仰、選民思想、終末論をどう再定義したか。パウロの福音理解を新鮮な目で読み直す。 四六判・定価2970円

神学と社会理論

世俗的理性を超えて

現代の古典、待望の邦訳！

ジョン・ミルバンク著／原田健二朗訳

ポスト・リベラル神学を主張する「ラディカル・オーソドクシー」の出発点。アングロカトリックの伝統に連なる断固たるキリスト教社会主義者の面目躍如たるものがあり、また現代思想との対論は極めて刺激的。 A5判・定価9350円





女性のための本屋

イギリスに留学した一九八〇年代半ば、大学の前に女性のための本屋 (Women's bookstore) がありました。その扉を開いた時から、私の留学生活は大きく変化しました。女性のための本屋では、書籍はもろろんですが、さまざまな小冊子やチラシが並べられていました。まだまだ日本ではフェミニズムが大学の科目として語られることがほとんどなかった時代、そこに置かれていた書籍や小冊子たちは、身近なフェミニズム運動のさまざまなあり方について教えてくれたのです。

宗教関係では、イエスの十字架上の死と復活を最初に目撃したと聖書の中で語られる女性たちの重要性が消し去られてしまったのはなぜかと問うエリザベス・シユスラー＝フィオレンツァ (Elizabeth Schüssler Fiorenza) や、カトリック教会を批判して教会を飛び出た神学者のメアリー・デイリー (Mary Daly)、古ヨーロッパには父権文化よりもずっと前に母権文化があったというマリア・ギンブタス (Maria Gimbutas)、女性

の視点から神を描いたスウェーデン生まれのモニカ・スジョー (Monica Sjöo)、そしてそれらの書物を自分なりに解釈して日常生活に結び付けようとする女性たちが発信する小冊子たちは、どれも新鮮でした。さらに、キリスト教以前のイギリスにあつたとされる女神信仰を再発見しようとする勉強会や活動、そして魔女信仰や自然信仰とともに復活させようとするセミナーやその儀礼のお知らせなどに驚かされるとともに、その多様な女性たちの活動に関心を引き寄せられました。大きな組織や神の名のもとに権威を振りかざされることをよしとせず、無力とされてきた人々が自らの経験の意味を取り戻し、自分の生活になじむものかどうかを自分自身で判断しようとする意気込みが感じられました。そうした書物とともに過ごせた時間は、とても貴重なものとして今も私の人生に残っています。

(こまつ・かよこ＝多摩大学名誉教授)

小松加代子



▼シリーズ この三冊！

生きることを日常生活から考える

エッセーなら、この三冊！

望月麻生

(もちづき・あさを・日本基督教団西大和教会牧師、愛の園幼稚園園長)

奈良県の北西部、斑鳩いかるがのはずれに住み始めて一年がたちました。牧師をしながら隣接する幼稚園の園長の仕事もしている私は、送迎バスに添乗します。その車窓には法隆寺の五重塔。実にゼいたくなく眺めです。歴史の彩り豊かな地での暮らし。点在する古寺の掲示板には、示唆に富む手書きの言葉が貼られています。それらを見るのが、私のちょっとした楽しみです。

湧水のように新鮮な、生きた言葉と出会う。得難い機会です。自分に何か

を問いかけてくれる言葉に出会えることは、これほどまでに喜びであるのだと、あらためて気付かされる今日この頃です。

怠慢ゆえの愚痴と思われても仕方ありませんが、正直に申し上げます。読書は牧師の大切な仕事のひとつと知りながらも、まとまった読書ができないのが、最近の深い悩みです。文字にはたくさん触れるのです。幼稚園の補助金の申請書類、忘却の彼方にあった会議の議事録案、労務管理のハウツー本。

夕方遅くに帰宅すればソファーに身を投げ出し放心状態。「風呂キャンセル界限」は全力で回避していますが、もはや「読書キャンセル界限」寸前の日々です。

そのような中、積み上がった書類の奥深くに身を潜める私を助けてくれたのは、1章ずつが短い時間で読み切れる本の存在でした。スキマ時間に読み切れる文章はありがたいものです。読み切れたことによる小さな達成感もうれしいものです。

また、読書は、大長編の難解な映画を観るようなあり方はもちろん、写真のシャッターを鋭く切るかのような向き合い方もあるのでしょうか。自分の心の奥に差し込んできた物語や言葉が、世界の見方をほんの少し変えてくれる経験は、文章の長さや本の厚さでは計りきれないものです。

*

本が読めていないと嘆く私ですが、実は著作があります。『たからさがし 神さまからの不思議なおくりもの』です。月刊誌『信徒の友』など、いくつかの雑誌で連載していた文章をまとめたり、書き下ろしを加えたりしたものです。読みやすい長さの全24話を四季の移ろいごとにまとめられています。キリスト教のむずかしい用語は使わず、誰もが使う、平易な言葉で綴っています。日常の気にもとめていなかったことが、実は味わい深い宝物であったこと。それを読んでくださる方と分かち合いたいという思いで作った本です。

ちゃっかり者の信徒の家の中にタケノコが生えた話とか、教会のおばあちゃんたちがクリスマススの献立を太巻きか細巻きかで採める話とか、そんなものが載っています。

私自身の痛い経験や苦い思い出も容赦なく綴りました。全然かっこよくな

い毎日。しっかり生きている周りの人を見ては、ため息をつく日々。それでも、時々ハッと気づくのです。自分のついたため息よりも多く、神さまが自分に命の息を吹き込んでくださったということに。流した涙よりも多く、神さまが恵みの雨を降らせてくださっていたことに。泣いてもいい、逃げてもいい、生きることに下手くそになってもいい。それは惨めな場面ではなく、神さまの恵みがあふれる場面だったのだと。そうした、日常が神さまからの不思議な贈り物でいっぱいだったことに気づいた、その記録のような本です。

この本はありがたいことに、少なからぬ方々から感想をいただく機会に恵まれました。興味深かったのは、病院や施設で療養している方に持って行ってくださった方々がおられたこと。そして、疲れた牧師がけっこう読んでくれていたこと。どんな出来事もどんな

人との出会いも、捨てたもんじゃありません。神さまがどこかにつながる取っ手を必ずつけていてくださる、そのことが少しでも伝わったらいいなあと思っています。

*

ところで、私は中学生のとき、初めて聖書に触れました。入学したのがキリスト教主義の学校だったので。最初は礼拝や宗教科の授業で聖書を「読ませられていた」に近い感覚でした。

しかし、手持ち無沙汰にめぐっていると時々おもしろい部分がありました。旧約聖書の「コヘレトの言葉」はそのひとつです。中学生と同じようなことを考えている人が大昔にもいたのだと、妙に親しみがわきました。世の中すべてに冷めているような、悟り切ったようなものの言い方。この世のあらゆる力を身につけても、人は所詮いつか死ぬ身であると言いつける潔さ。自分が漠

然と抱える劣等感や不安を鋭い刃で断ち切ってくれるのが「コヘレトの言葉」でした。

今も、この不思議な書物は、折々に私を助けてくれます。『人生に無意味なことなどない 今を生きるコヘレトの言葉』は、柔らかく、やさしく、鋭い一冊です。「コヘレトの言葉」研究の第一人者である小友聡氏があらためて全訳した「コヘレトの言葉」とその解説が収められています。

まるで詩集のようなページのデザイン。そして、長くても見開き1ページ半の解説。わずかな時間であつても「これなら読めるかも」と思わせてくれ、実際に読んだらその豊かな内容に浸れる本です。

聖書学者として探求を続けてこられた小友氏が、誰もが親しめる言葉で描き出すコヘレトの世界。死という終わりがあるからこそ、人生には意味があ

ること。限りある短い人生、明日をも知れぬ身であるからこそ、食べることや働くことが喜びとなること。コヘレトならではの「一見冷めた眼差しは、絶望でも悲観でも虚無でもなく、あなたの現実をとことん生き抜け」というメッセージであることを、この本から教えていただきました。

*

最後に、『人間臨終図巻』をご紹介します。もともとはお葬式で語る説教の参考にと買った本でした。人の死に際というものはここまで多様な物語があるのかと、本書の持つ不思議な魅力について惹きつけられて読み進めたものです。

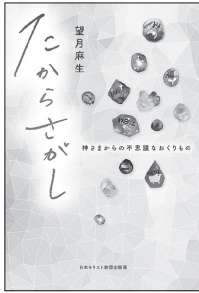
戦後日本を代表する大衆娯楽小説の大家とされる山田風太郎氏による全4巻の本書は、読書家の間では異色のノンフィクションとして知られています。

古今東西の著名人900名以上の

「死に際」を享年順に記した本というのは、あまり例を見ないでしょう。他の伝記や人物事典とは違い、「死」という一瞬を通して人間像を鮮やかに浮かび上がらせています。英雄や作家、犯罪者に至るまで、選ばれた人物は多岐にわたります。

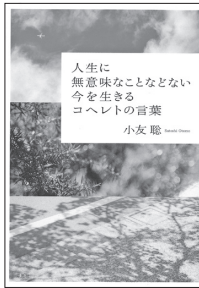
誰にでも訪れる死。いづどんな形でも自分に訪れるかわからない死。享年別に書かれていることもあり、読み手の年齢や立場によって受け取り方が変わっていくでしょう。死に際の話でありながら、生きることを考えさせられるから不思議です。

例えば、私の今の年齢で生涯を終えた人としては、歌手のエルビス・プレスリーが紹介されています。彼は自宅で倒れているのを発見され、救急車でメンフィスのバプテスト病院に運ばれたものの、そのまま心臓発作で亡くなりました。彼は過労ゆえに入院を重ね



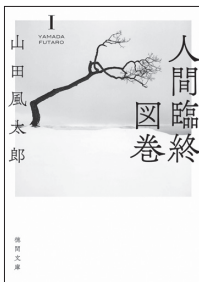
『たからさがし——神さまからの不思議なおくりもの』

望月麻生：著
日本キリスト教団出版局
2024年
四六判
120頁
1,540円



『人生に無意味なことなどない——今を生きるコヘレトの言葉』

小友 聡：著
草思社
2025年
四六判
256頁
2,200円



『人間臨終図鑑』

新装版
山田風太郎：著
徳間文庫
2011年
文庫判
I 448頁 913円
II 464頁 755円
III 464頁 755円
IV 480頁 755円

ました。また中年太りをおそれて葉づけになりました。彼のあとに現れた人氣歌手を妬むあまりにテレビの映像を銃で撃つなど、激しい嫉妬に苛まれる晩年でもありました。死に至るまでのプレスリーの烈しい日々的文章を通して触れるとき、大スターの最期は自分にとって遠いものではないようにも思えました。

命がけで働き、あまりにも重たいものを多く担って生きてきた先輩や友人、その人たちとの思いがけない別れが、胸に去来するのです。自分が普段いかに自分の命をいいかげんに扱っているかということもまた。

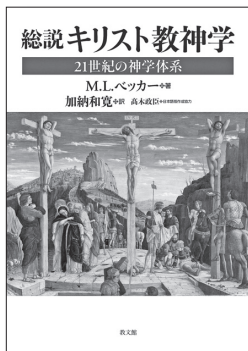
*

「日常生活」と聞けば、ずいぶん平凡な言葉に思えます。しかし私たちの

日常とは、今日一日命を神さまから与えられたというこれ以上ない奇跡であり、同時に限りある命のなかで人や社会の波に揉まれまわることでもあります。「日常生活」はたいへんな大冒険なのです。そうした中で自分の「生きる」を共に見つめてくれる本と出会えることは、少なからぬ助けであることと思わされる今日この頃です。

最新の議論をこの一冊で網羅!

〈評者〉 芦名定道



総説キリスト教神学

21世紀の神学体系

M・L・ベッカー著

加納和寛訳



キリスト教神学全般をその基本から学びたいと考えている人にとって、また神学に敷衍の高さを感じている人はもちろん、神学を大学などで本格的に学んでいる人にとっても、一読に値する著書が邦訳されました。かなりの大著ですが(参考文献表や索引を加えて上下二段組千頁近い)、著者の問題意識の広さと学識に裏づけられた読み応えのある内容です。丁寧な記述とさまざまな工夫(各章の結びには、的確な「復習とディスカッションのための問い」と詳細な「さらに学ぶために」が付されるなど)は特筆すべきです。

著者ベッカーは、アメリカのヴァルパライソ大学の神学教授でアメリカ福音ルーテル教会所属の牧師です。著者は、本書の目的を「大学の学部生や神学大学院の院生が学術分野としてキリスト教神学を学ぶ準備となること」がら(ま

えがき)を紹介することと説明していますが、念頭におかれるのは、カトリック神学で伝統的な学科として知られる「基礎神学」(日本ではあまり耳にする機会がないでしょうか)であり、それには哲学的神学と神学総論が含まれます。つまり、本書は神学の諸学科全体の見取り図を描き、学術的な基礎を明らかにすることをめざしており、それは次の三部構成によって具体化されます。「第一部 キリスト教神学」(キリスト教とその神学を構成する諸伝統を踏まえて、キリスト教神学とは何かを論じる)、「第二部 キリスト教神学の対象」(哲学的神学と自然神学から始まり、啓示神学と信仰を論じ、聖書学・聖書神学を経て、救済史と特殊啓示に関わる諸テーマに至る)、「第三部 大学の中でのキリスト教神学」(神学を構成する諸学科の解説とそれらの全体像を扱う神学総論。キリスト教神学と人文科学・

自然科学との関係)です。

以下、本書の重要な特徴を紹介します。本書ではキリスト教における伝統の多様性が詳細に示されていますが、著者のルター派の立場にとどまらず、エキユメニカルな意識に基づいて広範な諸教派の信仰と神学がバランス良く取り上げられます(第Ⅱ部)。また本書では神学の諸伝統の意義が論じられると同時に、キリスト教と神学が直面する現代の状況が視野に入れられています(伝統と状況を意識した論述)。たとえば、第Ⅱ部の無神論への対論です。さらに現代の総合大学におけるキリスト教神学を論じた第Ⅲ部では、神学総論にとどまらず、キリスト教神学と人文科学(宗教学、哲学、芸術・建築・音楽)や自然科学(進化論、宇宙論、生態系の危機)との関わりが最新の議論を含め取

り上げられており、これは、本書の優れた特徴の一つです。もちろん、総合大学における神学といっても、アメリカとドイツでは事情が異なります。著者はこの点についても興味深い説明を行っていますが(六四九頁以下)、「訳者あとがき」では、さらに日本の神学事情との比較を加えて解説されており、現代における神学教育の実情を知ることができます。

本書は、大学院で神学を専門として学ぶ前の学部生が念頭におかれています。神学に関心ある方すべてにとって良き学びのガイドになるでしょう。大著なので、大学や教会での読書会で、とくに関心のある章から学び始めるのがお勧めです。

(あしな・さだみち) 宮城学院女子大学学長、京都大学名誉教授
(A5判・九九四頁・定価一三二〇〇円・教文館)

ヨベルの新刊 / 近刊案内

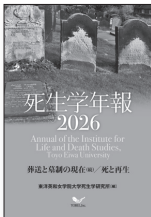
敬神奉仕

好評発売中

堀川敏寛 [編著]
東洋英和女学院大学
礼拝説教より

東洋英和女学院大学での礼拝説教を基にして、スクールモットー「敬神奉仕」の全体像を体系化！ 単なる倫理的命令ではなく、「神の国」という終末的ビジョンとの関係において、敬神奉仕は神学的・倫理学的意味を完成させる。

四六判・二四〇頁・一八七〇円



死生学年報 2026

東洋英和女学院大学 死生学研究所 [編]

死生学研究所2024年度(公開)連続講座の内容をもとにした「特集1..葬送と墓制の現在(2)」と、2025年度(公開)連続講座のテーマに添った「特集2..死と再生」の2本立てで特集を構成。3月15日刊

A5判・二四〇頁・二七五〇円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税込)

聖書が語る喜びと 自由への解放の手引き

〈評者〉藤掛順一



ウエストミンスター
信仰規準
日本キリスト改革派教会公認訳
日本キリスト改革派教会訳



本書は、「ウエストミンスター信仰規準」(ウエストミンスター信仰告白)「ウエストミンスター大教理問答」「ウエストミンスター小教理問答」の邦訳ですが、肝心なことはこれが、「日本キリスト改革派教会」の大会で承認された「公認訳」であることです。何人かの方々によって

定期大会」と、二〇二三年六月二二日の「第七七回年度第二回定期大会」において可決され、これらを合わせて「ウエストミンスター信仰規準」の「日本キリスト改革派教会公認訳」が成立したのです。

既にくいつかの翻訳が出されていましたが、同教会の「憲法委員会第一分科会」において、二〇二六年(つまり本年)の日本キリスト改革派教会創立八〇周年までに「教会公認訳」を作成することを目指して作業がなされてきました。「信仰告白」と「大教理問答」は二〇二四年一〇月二三日の「日本キリスト改革派教会第七九回年度第一回定期大会」と、二〇二五年六月一九日の「同第七九回年度第二回定期大会」において可決され、「小教理問答」はそれより早く、二〇二二年一月一五日の「第七七回年度第一回

「信仰告白」は二〇〇九年に出版された村川満・袴田康裕訳を修正したもの、「大教理問答」は二〇二一年に出版された袴田康裕訳を修正したもの、「小教理問答」は二〇一九年に出版された袴田康裕訳を修正したものとなっています。元となった訳業をなさった方々のお働きと共に、松谷好明氏による「ウエストミンスター神学者会議」についての詳細な研究も、この「公認訳」成立に大きな貢献をしています。

ところで評者は以前富山市の日本基督教団の教会に仕えていましたが、富山市には日本キリスト改革派の教会がな

かったため、同教会の信徒さんたちも出席しておられ、転入して教会員になった方々もおられました。その方々との交わりの中で、日本キリスト改革派教会の教理教育のレベルの高さを実感すると共に、その方々が「ウエストミンスター信仰規準」に対して誇りと忠誠心を持っておられることに感銘を受けました。同じ旧日本基督教会からの伝統を受け継ぎ、基本的には改革派の信仰に立っているとはいえ、「簡易信条」でよしとしてきた私たちと、一九四六年の創立以来「ウエストミンスター信仰規準」を採用し、それを咀嚼し、それによる伝道と教会形成に励んで来た日本キリスト改革派教会との違いがそこにはつきりと現れていると感じました。そのような地道な努力と研鑽がこの「公認訳」として結実したことに敬意を表します。

「簡易信条」に慣れ親しんでいる者にとつては、教理体系を詳細に語っているこの信仰規準は、聖書の読み方を狭く限定しているように感じることがあります。しかし例えば「信仰告白」の第3章「神の永遠の聖定について」を読むと、「予定」の教えが通俗的に語られるような「運命取論、決定論」とは全く違う、慰めに満ちた教えであることが分かります。教理が明確に示されているからこそ、聖書が本来語っている喜びと自由への解放を体験することができるのです。

(ふじかけ・じゅんいち) 日本基督教団横浜指路教会牧師
(四六判・二二六頁・定価二四二〇円・教文館)

ヨベルの新刊 / 重版案内

戸惑いながら信じてる 50 新型キリスト教入門2

格調は低く、ハードルと「ノロザシ」は、いや増しに高く！ 原発、臓器移植、デザイン・ペビー等、社会の諸問題に聖書からの直接の回答を得ることができない。どうしたらいいか。このさらなる難題に教師とみティが挑んだ第2弾！

四六判・二〇八頁・一五四〇円




富田正樹 [著]

疑いながら信じてる 50 新型キリスト教入門1

「疑いながら信じてる」以外の信じ方って、ある？ 信じてる50。私は疑いながら信じています。キリスト教を信じる人たち(クリスチャン)の中には疑いなど全く抱かずに、まるっきり無邪気に信じ込んでしまっている人がいます。それはそれで結構……どう展開する!?

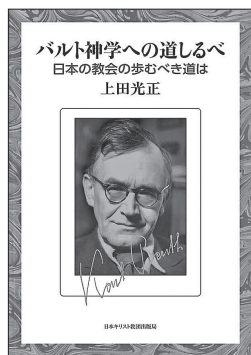
四六判・一九二頁・一五四〇円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税込)



バルト神学を日本伝道、そして 世界宣教への道しるべに

〈評者〉 井ノ川勝



バルト神学への道しるべ
日本の教会の歩むべき道は
上田光正著



『カール・バルト入門』『バルトによる説教論』に続き、『バルト神学への道しるべ』が間髪を入れずに刊行された。上田光正先生によるバルト神学を紹介する三部作である。新刊の副題に、「日本の教会の歩むべき道は」が掲げられる。三部作全てが、日本の教会の伝道の進展を願い、著者が祈りを込めて綴られたものである。その情熱が伝わってくる。著者の関心は、これからの日本基督教団、更に、日本のプロテスタント教会の歩むべき道は何かである。その場合、カール・バルトの神学をきちんと学び直すことが、最も重要なことの一つであると考ええる。上田先生は神学生時代からバルト神学に親しみ、ゲッチンゲン大学でガイヤー教授の許で、「カール・バルトの人間論」の博士論文を書かれ、バルト神学に学びながら一筋に説教をし、伝道をして来られた伝道者であり神学者である。本著はバルト

の『教会教義学』の要諦とも言える「和解論」と「神論」（恵みの選びの教説）を、日本伝道の視点から説き明かす。バルト神学の中心は「贖罪論」にあると捉える。伝統的な「刑罰代受的贖罪」ではなく、「審判代受的贖罪論」を唱える。「裁く者が裁かれた」という命題に注目する。ただ一人の裁き主が、われわれ人類を代表して裁かれ、「代理」の贖罪死を遂げられた。そこに人間の罪に対する「神の愛の勝利」、「贖罪愛」とも呼べる「完全な愛」がある。この「代理」の贖罪理解を支えるのが、「恵みの選び」の教説であると捉える。ルター、カルヴァンが遺した予定説の課題を完成したとする。「キリストへの集中」により、イエス・キリストこそわれわれに代わって「棄てられた者」であり、彼の身代わりの死によって、罪人であるわれわれが永遠の救いへ「選ばれた者」として、贖罪が成し遂

げられた。バルトの「キリストへの集中」による新しい予
 定理解は、宗教改革の神学の完成であると捉える。このよ
 うなバルトの「和解の神学」は、公同性を持ち、様々な対
 立を乗り越え、「神の国の福音」という射程を持ち、将来
 への道を備える。そこに「今こそ、バルト神学」があると
 見る。

本書は三部構成になっている。第三部でバルト神学を語
 る前に、第一部と第二部で、モルトマンの「希望の神学」、
 パネンベルクの「歴史の神学」を論じる。一九六〇年以降
 の「世のための教会」の問題に対し、一石を投じた。しか
 し、モルトマンの「希望の神学」には贖罪論が欠如し、パ
 ネンベルクの「歴史の神学」は「神からの呼びかけ」を証
 する「聖書の神学」が希薄である。それに対し、バルト

アモス書を読もう 正義を大河の ように流れさせよ

並木浩一



預言者アモスの言葉に端を発して成立し
 たアモス書は、社会的不正義と人間感覚
 の喪失を鋭く指摘し、正義と公正こそ神
 の重大な関心事であると語る。著者によ
 る私訳と詳細な解説を通して、聖書のこ
 とばが持つ多層性と現代性が深く響く。

四六判 並製・184頁・定価2420円

エフエソの信徒への手紙を 読もう 神の極彩色の世界

深澤 奨



キリストにおける多様性と一致がテーマ
 のエフエソ書。対立する教会がキリスト
 によつて結ばれ、「神の極彩色の知恵」を証
 する共同体として歩むよう促す、現代
 の社会と教会への手紙を斬新に読み解く。

四六判 並製・160頁・定価1980円

の「和解の神学」はキリストを中心として、「罪の赦しの
 福音」（教会）を内円とし、「神の国の福音」（世界）を外
 円とする同心円を描く。世界の宣教的状況、日本基督教団
 内の福音理解の対立を越える道しるべがここにあるとする。
 『キリスト教教義学』の著者・近藤勝彦先生は、バルト
 神学はキリストの人性が十分に捉えられず、殉教をも辞さ
 ない伝道への熱意や献身は生まれてこないと批判する。そ
 れに対し、著者はバルトの言葉で、バルトに代わって応答
 する。両者共、日本伝道に情熱を傾ける伝道者・神学者で
 あり、熟読すべきである。本書を通して、『教会教義学』
 を読み直せば、バルト神学が日本伝道、世界宣教への道し
 るべとなり、われわれの説教も変えられるであろう。

(A5判・三二二頁・定価四九五〇円・日本キリスト教団出版局)

日本キリスト教団出版局
 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 ☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
 E-mail eiyou@bp.uccj.or.jp (価格10%税込)
<https://bp-uccj.jp>

カギは「入植者植民地主義」だ！

〈評者〉 中野真紀子



キリスト教シオニズム
とは何か
大宮有博著



イスラエルによるガザ市民への無差別大量殺戮が続くなか、アメリカ合衆国は一貫してイスラエルを支持し続けてきた。国際司法の場でジェノサイド批判が高まってこそその姿勢は揺るがず、むしろトランプ大統領の登場以降、国連を中心とする戦後国際秩序そのものを解体しつつあるように見える。なぜそこまでしてイスラエルをかばうのか？

しばしば指摘されるのは、イスラエル・ロビーの政治的影響力や、最先端軍事技術の開発拠点としてのイスラエルの戦略的重要性である。しかし本書が提示するのは、より根源的な思想的基盤、すなわちキリスト教シオニズムの存在だ。聖書の物語や神学概念を用いて、ユダヤ人によるパレスチナへの入植と植民地支配を正当化するキリスト者の思想と実践である。

米国人人口の約三割を占める福音派キリスト者の多くは、

聖書の預言を寓話ではなく文字通りの歴史像として受け取る。彼らにとって、ユダヤ人が「約束の地」に集結することは、イエス再臨と最後の審判に向かう終末シナリオの起点である。そのなかでも、ユダヤ人をパレスチナに「帰還」させることが神の計画成就に不可欠だと考え、イスラエル国の存続を無条件で応援する人々がキリスト教シオニストだ。この思想が周縁的なカルトではなく、一九七〇年代以降の米国の中東外交を方向づけてきた巨大な社会勢力であることを、本書は解き明かす。

歴史をたどれば、キリスト教シオニズムはアングロサクソン特有の入植者植民地主義と分かちがたく結びついている。ニューイングランド植民地のピューリタンは自らを神と特別の契約を結んだ「新たなイスラエル」とみなし、北米大陸を「約束の地」と呼んだ。イスラエルを無条件に擁

護するのは、白人入植者国家として成立した自国の過去を正当化するためだと、本書は論じる。

キリスト教シオニズムは、ユダヤ人の近代シオニズム運動よりも古く、宗教改革期に萌芽をもつ。十九世紀に英米のプロテスタント教会で前千年王国説が広まり、エリート層がユダヤ人の「改宗」とパレスチナへの「帰還」を支援する基金や団体の設立に関与し始めた頃から、この宗教的信念は明確な政治運動へと転化していった。この動きは、中東支配を目指す帝国主義的構想と密接に連動している。

本書は、こうした思想的展開を踏まえつつ、現代の主要団体の活動や日本における受容と影響にも目を向けている。また、シオニズムを宗教右派やペンテコステ派だけの問題ではなく、プロテスタント全体にしみ込んだ問題とし

て捉え、真摯な取り組みを促している。この点で、キリスト教シオニズムによる聖書解釈の問題点を指摘し、別の解釈を提示する第八章「聖書から学ぶ」の内容は興味深い。ここに、日本の教会がキリスト教シオニズムと決別する第一歩があると言えるだろう。

植民地主義とキリスト教の関係は興味深いテーマであるが、深掘りしようとする専門的な教義解釈に足をとられて、門外漢には敷居が高い。植民地支配との連続性を軸にキリスト教シオニズムの歴史を整理した本書は、簡潔な記述で要点を網羅しており、大きな流れを理解するのに役立つ非常に優れた参考書である。

(なかの・まさこ) 翻訳者

(A5変判・九六頁・定価一三二〇円・日本キリスト教団出版局)



神の目にあなたは貴い

ユースにおくる! 生きるための道しるべ

久野牧*著
HISANO Nozomu



混沌の度合いが深まり、平和や自然の破壊が深刻さを増し、さらにAIがさまざまな領域で力を発揮する時代の中で、あなたも神の言葉(聖書)に聴き続けることはどれだけの意味があるのか? 本書はその問題意識に立って、ユースに向けて語りかける小説教集である。

A5判変型・並製本
定価 1,980 [本体 1,800 + 税] 円
ISBN978-4-86325-173-1



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

物語に聞き、物語を生きる

〈評者〉梅澤弓子



傘の神学Ⅱ
特殊啓示論
隠れた神からの語りかけ
濱 和弘著



本書は濱氏の原著『傘の神学Ⅰ 普遍啓示論』そこに立ち現れる神（2024年）の後篇にあたり、もともと両書は一冊として書きおろされたものであるという。2020年に出版された『人生のすべての物語を新しく…シエルの神学から傘の神学へ』からすると通算三冊目の著書となる。

さて、濱氏が提唱する「傘の神学」のひとつの特徴は、「普遍」と「特殊」とを二項対立的に捉える構図を脱却し、「二重性」というパラダイムで語りなおすところにあるといえよう。本書の主題である「啓示」についても、「キリスト教」という限定を超えてすべての人間によって「直観」される「普遍啓示」と、イエス・キリストや聖書といったキリスト教独自の媒介を通してのみ「認識」される「特殊啓示」とは、「不可分・不可同・不可逆」な二重の在

り方をしているというのが、大前提となっている。この神学的構えのもと、前者では、「普遍啓示」に焦点が合され、キリスト者に限らずあまねくすべての人々に注がれる「神の愛」と「救い／掬い」が強調されたが、本書ではイエス・キリストと聖書、また礼拝という「特殊啓示」が注視され、人間は他ならぬこの「特殊啓示」においてこそ神の言葉を聞き取ることができるとの確信が示される。

「特殊啓示」の中でも、本書でとりわけ熱情を以て進められるのが、聖書の検討である。福音派の牧師として「聖書は信仰と生活の最終的権威なのです」（189頁）と説く著者は、その根幹である聖書を「信仰の事実」「正典」「聖書主義と聖書信仰」「無誤性と無謬性」「釈義と解釈」など様々な角度から照射し、「今、ここで」わたしたちが「特殊啓示」である聖書を読むことの意義と意味とを尋ね

黙想シリーズ

聖書 聖書協会共同訳

日々の黙想

今ここに 気付く

150の祈りと瞑想

各黙想に、
聖書の言葉と
瞑想の実践法を掲載
対象中学生から

神と共に自分自身でいるために
クリスチャンのための
マインドフルネス実践入門



著者

NEW



アイリーン・クレイゲル 著
(心理学者)

合成皮革装・スリーブ入

天地175×左右110mm 360頁

税込価格 2,640 円

ISBN978-4-8202-9294-4



JBS 日本聖書協会

■お求めは全国のキリスト教専門書店
〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
<https://www.bible.or.jp>



てゆく。そして、身を削る考究を経て「聖書をリテラリズム（字句拘泥主義）で読み解くのは間違いである」と論じるに至り、聖書を物語（ストーリー）として読む道を提示する。著者によれば、聖書を物語として読む時、人間は心が共感する部分において神の語りかけを聞き、その物語が示す生き方を生きるようになるという。そして、その時にこそ「わたしたちキリスト者一人一人の生もまた、神の啓示となるのではないのでしょうか」（276頁）と濱氏は読者に呼びかける。

本書は日本ホーリネス教団の『教理読本』用に準備していた稿を土台としていたことで、その含みを随所に感じるどころではあるが、広い知見で神学史上の論争や諸説が整理して示されており、しかも平易な文体で語られてい

ることから、教派や信仰の有無を問わず、学びのよきガイドとなることであろう。

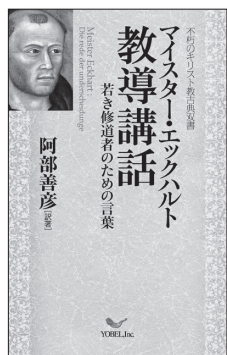
聖書の読み方や聖書の権威をめぐる論考については、あるいは福音派周辺にあつて異論の出るところかもしれない。しかし、本書の率直かつ果敢な発題を契機に議論が広がってゆくならば、それはまさに、著者が目指す、閉ざされた「シェルター」から開かれた「傘」へという神学の座の解放に繋がるものとなろう。

（うめざわ・ゆみこ 立教大学文学部教授）

（四六判・三二二頁・定価三二〇〇円・ヨベル）

「すむ」ことのできない現代社会 の苦しみに寄り添う名著

〈評者〉石井砂母亜



教導講話
若き修道者のための言葉
マイスター・エックハルト著
阿部善彦訳



「すむ」というやまと言葉は、多様な意味連関を含みこむ用語である。「すむ」とは、曇りなく透明に「澄」み、濁りが澄み分けられるように、人間の抱える問題が「濟」み、安んじて「住む」ことである。だからこそ、「すむ」ことは今も昔もむずかしい。ウサギ狩りに興じる人間がそうであるように、われわれは家にじっとしていられず、欲望の対象と欲望の原因を取り違えながら欲しくもないものを追い求め虚しく空転する（パスカル『パンセ』断章一三九）。われわれは根無し草のように浮遊し、苦悩のうちにまがくのである。

本書は、長らく異端として歴史の波間におかれたマイスター・エックハルトの『教導講話』と「ドイツ語説教一〇一」を阿部善彦氏が訳出したものである。七〇〇年以上も前の古典であるが、現代人が抱える「すむ」ことのできぬ

苦しみに丁寧寄り添い、「すむ」ための方途を教えてください。

『教導講話』の冒頭で、エックハルトは一切を手放す従順を若き修道者に勧めているが、この従順は濁りが澄み分けられた透明さであろう。透明であればあるほどそこに全体が映されるように、「一切のことから離れ去っていかばいくほど、……神が御自分の一切を携えて内奥へと入ってきてくださるのである」（二六頁）。「すむ」は真の充足となる。

他方、エックハルトは事あるごとに「欺かれないように注意しなさい」と繰り返している。というのも、この透明さは「諸々の事柄から逃れて、外見上に現れるものから離れて、自分を無人寂寥の地に引きこもらせ」（四〇頁）ることではないからである。「荒れ地で独りになることより

も、集団の中で独りになること」(一一一頁)に困難さを見るエックハルトは、「どこにあらうとも、だれとともにあらうとも、自分の内奥に無人寂寥の地を持つ」(四〇頁)ように勧告する。「すむ」とは、「自分の内奥に無人寂寥の地」を持つことであり、そのために一切を手放し、それゆえに一切に照らされてこの地において生きることである。そのような生には困難が伴うが、エックハルトはそのことを否定しない。むしろ克服できない弱さや罪の自覚のうちに、手放すための真の修練を見るのである(第二部第九章)。

若き修道士との問答である『教導講和』の主題は、初め邦訳である「ドイツ語説教一〇一」によって補完され、一切の放棄による神の生命への参与が神の受肉において可能となると言われる。それは「神化(テオーシス)」の伝統を汲むものであり、エックハルトはそれゆえのちに異端として断罪される。

しかし、一切を手放す従順が「人間が神となる」その内実であるならば、訳者がイヴ・コンガールの言葉を最後に引いたように、神化の問題はわれわれが「どこに住み、いかなる生の領域から語り、いかなる言語で語っているか」という問いと切り離すことができなくなる。コンガールと

同じく「わたしは聖書と教父たちと諸公会議の教会に住んでいる」(二七〇頁)と宣言するのであれば、その「すむ」は無一物として神の受肉を受けることであり、そこに神化の問題が横たわっている。

本書は、神の受肉と神化という神学の根幹に関わる問題に一石を投じるものであり、かつ「すむ」ことのできない現代社会の苦しみに寄り添うものである。訳者による優れた解説とともに今後読み継がれるべき名著である。

(いしい・さもあ・跡見学園中学校高等学校教諭)
 (新書判・二八〇頁・一九八〇円・ヨベル)

アルノ・グリユーン 村椿嘉信訳

5刷り出来!

四六判変型・二二〇頁
 八八〇円

従順という心の病

私たちがすでに従順になつてい

工藤信夫氏評「従順」が良しとされる文化と、信仰の世界に再考を迫る、すぐれた洞察の書。

ヨベル YOBEL Inc.
 info@yobel.co.jp 税込
 協同出版の専門出版社

レント、それは神を求め、 自分と出会うとき

〈評者〉 古本みさ



私を遣わしてください

レントのこころ

ポーラ・グッター 著

中原康貴 訳



今年もレントの季節がやってくる。学校現場で働いていると、アドベントと同様、レントもまた世間的に忙しい時期と重なりがちだ。気がつけば「心を神に向ける（悔い改め）」という本来の過ごし方から、少し距離ができてしまっている自分に気づく。四十日間、大好きなチョコレー

トを我慢すること。所属する教団が毎年配布する「大斎克己献金」の封筒を、書斎の壁に掛け、思い出したときに小銭を入れること。それくらいが、ここ数年の私のレントだった。そもそも、「心を神に向ける」とは、どういふことなのだろうか。本書は、その本質的な問いへ、読者を静かに、そして力強く導いてくれる一冊である。

著者ポーラ・グッターは、現代の英国聖公会を代表する聖書学者の一人だ。彼女は、聖書の物語がもつ力を大切にしながら、読者が物語の中に身を置き、登場人物と共に歩

むような黙想のあり方を提唱してきた。本書にも、その特徴が息づいている。舞台は、聖書において「危険」と「救い」が隣り合わせに描かれる場所——荒れ野である。

グッターは、レントを単なる我慢や自己抑制の期間としてではなく、私たちが自分自身を知り、神の呼びかけに耳を澄ますための、「アイデンティティと召命」の旅路として描き出す。特に印象的なのは、弟子とは「学ぶ者」である、という一貫した視点だ。マルコ福音書に描かれる弟子たちが、何度もつまずき、失敗しながらもイエスに従い続けたように、弟子であることの本质は、完成された信仰や靈性にあるのではない。むしろ、イエスと共に過ごし、イエスが見ておられる世界を共に見ようとする、その歩みの過程そのものにあるのだと気づかされる。

序章で引用される「船は港にあれば安全だが、そのため

日本における聖書普及
事業150年記念出版

旧約聖書 詩篇

四訳対照

文語訳 口語訳
新共同訳
聖書協会共同訳

歴代の聖書を、
詩篇で読み比べ、
味わってみませんか。



ハードカバー・ケース入

天地210×左右210mm
文字の大きさ約8ポイント
厚さ29mm 422頁

定価 **3,960円**

(本体 3,600円 + 税 10%)

ISBN978-4-8202-4276-5



JBS 日本聖書協会

■お求めは全国のキリスト教専門書店
〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
<https://www.bible.or.jp>



に船は作られたのではない」という言葉は、本書全体の姿勢を象徴している。私たちは、安全な場所に留まるためにけに召されたのではない。荒れ野という不安と孤独を覚える場所へ足を踏み出すとき、私たちは初めて「本当の自分」と出会う。レントの問いとは、「何をするか」ではなく、「このレントを通して、あなたは何者へと形づくられていくのか」という、より深い問いなのである。

本書は、日曜日を除くレントの各日に一つずつの黙想が用意されているが、著者自身はそれを「答えを与えるためのもの」ではなく、読者と共に歩く「同伴者」でありたいと述べている。イエスは、荒れ野の厳しさや孤独を知りながら、そこを歩む道を選ばれた。その選択こそが宣教の原点であり、私たちが従おうとする師の姿である。本書は、

レントの終わりに、私たちがその重みを引き受けつつも、「私を遣わしてください」と喜びをもって応答できる者へと、静かに背中を押ししてくれる。

訳者である中原康貴司祭は、私の青年時代からの友人であり、同労者でもある。彼が本書を、これほど心に沁みる日本語にしてくれたことに、あらためて感謝したい。訳者あとがきに記されているとおり、本書が、彼自身をキリストの弟子としての新たな歩みへと促したことは間違いないだろう。私自身もまた、この一冊によって、今年のレントを迎えることが少し楽しみになった。キリストの弟子として歩もうとしているすべての人に、そしてとりわけ、これから聖職の道を志す人々に勧めたい一冊である。

(ふるもと・みさ 日本聖公会司祭、平安女学院中高チャプレン
(四六判・二〇〇頁・定価一八七〇円・ヨベル)

教会形成に生涯を献げた 植村正久

〈評者〉 岡部一興



植村正久と日本の教会
現代日本を植村正久と語る
崔 炳一 著



この書は、二〇二五年の植村正久没後百年を記念して出版され、植村神学の現代的意義を述べたものである。植村正久を扱った書物は数多くある。五十嵐喜和牧師は、植村を「日本を代表するキリスト教界の巨人」と言った。旧日本基督教会において多方面に亘って活躍しリーダーシップを発揮した伝道者である。旗本一五〇〇石の植村家の長男として生まれ、徳川幕府崩壊に伴って貧困を極め、糊口を凌ぐため豚飼いをした。植村がバラ塾の門を叩いたのは十五歳に満たぬ年齢で、横浜バンドの中で最年少であった。その回心は「武士的精神」である儒教的な神概念であり、陽明学とキリスト教とのある種の連続性が認められた。

この書では植村の活動を三期に分けている。第一期は一八五八年誕生から一八八四年。第二期は一八八四年から一八九七年。第三期は一八九八年から一九二五年。一八六八

年一家をあげて横浜に移転。七二年J・H・バラの私塾に移り、翌年受洗、ブラウン塾に入りキリスト教神学を学ぶ。七七年東京一致神学校に入学、翌年教師試補になり東京下谷で開拓伝道を行い、八二年山内季野と結婚。第二期では一八八四年に『真理一斑』、翌年『福音道志流部』を刊行。八七年には富士見町教会を設立、日本基督一致教会と組合教会との合同の委員になるが決裂、日本基督教会と改称。『日本評論』『福音週報』を創刊、九二年内村鑑三不敬事件で本多庸一、押川方義と声明文を出す。『福音週報』が発行停止、『福音新報』を創刊し独自の道を切り開く。第三期では信州、神戸、高知の教会を応援、名古屋、大阪、熊本等を巡回。一九〇一年海老名弾正とのキリスト論論争でその名を高め、明治学院神学部の教授を辞め、一九〇四年東京神学社を設立。一九一二年日本基督教会設立五〇周

年を迎え、朝鮮と台湾の伝道に目を向け、日本基督教会の中核的存在となっていく。しかし、一九二三年関東大震災によって富士見町教会と東京神学社が焼失、その再建に当たるが、一九二五年一月八日、その途上で逝去。

内容的には、第一章抵抗思想としての礼拝論、第二章アジア思想と歴史的和解、第三章文学論、第四章宣教論とキリスト教教育、第五章植村の信教の自由とキリスト教。植村の神学的営みは、キリスト論を中心とした神学の独立と国家からの独立にあり、欧米の教派的傾向の強いキリスト教ではなく、キリストの贖罪を神学的な根拠とした独立的国民的教会の形成を目指した。日清・日露戦争に対しては、日本が一等国という認識から戦争を肯定する立場を取り、植民地政策を支持した。植村は政治、社会、教育、宗教に

至る幅広い評論活動を行い、また文学を語り英文学を紹介、讚美歌の編纂等に貢献。注目すべきことは、五〇〇近い注の多さであり圧倒されたが、植村を中心として起こした田村直臣の教職剥奪、即ち『日本の花嫁』事件についても、紙幅の関係もあろうがふれてほしかった。著者は、現在の日本が抱える少子・高齢化、教会員の減少という問題を植村の宣教論の学びを通して新たな地平を切り開きたいという意識から植村の宣教論を捉えようとしている。本書は、植村の神学と思想を深く掘り下げることによって、現代の教会に生かそうとする試みが表れた力作である。従来植村研究を越えて多面的に捉えようとする試みがあり、貴重な資料がちりばめられていて参考になる。

(おかべ・かずおき 弘前学院大学客員教授
A5判・二七二頁・定価三三〇〇円・一麦出版社)



植村正久と日本の教会

現代日本を植村正久と語る

崔炳一*著
Choi Byung-il



植村正久没後一〇〇年

教会形成に生涯を献げた
植村との対話をおして
宣教のあり方を問い直したい。

植村はこう言うであろう。
信教の自由を守るために
日曜日遵守を重んじ
その自由を妨げる
この世の力に対して
常に抵抗の精神を
忘れてはいけない、と。

A5判・並製本
定価 3,300 [本体 3,000 + 税] 円
ISBN 978-4-86325-170-0



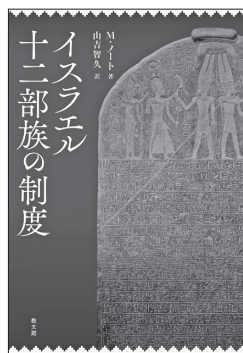
株式会社 一麦出版社

札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888

<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

詳細な解説を付した 待望の日本語訳!

〈評者〉**宮崎 薫**



イスラエル 十二部族の制度

M・ノート著
山吉智久訳



このたび、マルティン・ノートの『イスラエル十二部族の制度』(Das System der zwölf Stämme Israels)が山吉智久氏の見事な翻訳によって教文館から出版された。大変喜ばしい驚きである。

一九三〇年刊行の原著は、二〇世紀の旧約聖書学の最重要書の一つとされる。その中でノートは、古代イスラエル諸部族の「制度」を理論的に説明し、かの「アンフィクチオニー仮説」を体系的に提唱した。これが一世を風靡したのである。その事実には惹かれながら評者は肝心の本書を読めずにいた。しかし今やこの古典的名著が日本語で読める。まずは翻訳者の労に深く感謝を申し上げたい。

「第一部 資料の分析と解釈」(イスラエル十二部族の伝承、成立年代、歴史的土台についての三章)、「第二部 結論——『古代イスラエルのアンフィクチオニー』」(古代イ

スラエルのアンフィクチオニーの全般的な歴史時期、成立、営み、意味についての四章)において、主題テーゼが議論される。さらに付論として、「民数記二六章五―五一節のリスト」「ヨシユア記二四章と申命記一章二九、三〇節、二七章一―三節、ヨシユア記八章三〇―三五節の文学的分析」「*zib*という語の用例と意味」「士師記一九―二一章の文学的分析」の四つがあり、それぞれが前掲テーゼを裏付ける内容を呈している。

全体に読み応えがあり、ノートの一貫した主張と説得的な論述に圧倒される。今読んでもゆるぎない迫力があり、論文とは本来こういうものかと思わされる。

ノートは、イスラエルの諸部族を宗教的に結び付けるべく、中央聖所(聖なる箱の安置所)で祭儀を行う部族同盟が王国時代前の士師時代に成立していたと説明し、ギリシ

アの「アンフィクチオニー」と呼ばれる部族同盟との類比から「古代イスラエルのアンフィクチオニー」という社会形態の存在を主張した。「十二部族制度」の实在については、三つの伝統的証言（創世記四九章のヤコブの祝福、民数記二六章の人々のリスト、民数記一章五―一五節の部長のリスト）を証拠資料とする。他の箇所は文学的創作であるとして重んじないが、十二という数は本質的な要素とする。

イスラエル十二部族は旧約聖書全体で複雑に言及されるが、ノートは大胆に聖書の歴史資料を分析し、テキストの文学的統一性と複合性とを切り分けながら、部族制度を論じていく。また申命記史家的見解とアンフィクチオニーの存在との関わりについても随所で述べる。その目配りの広さと解析の細かさからは多くを学べると感じた。

数多の研究者を魅了した彼の学説は、一九七〇年代以降は批判を受け、現在はほぼ顧みられていない。しかし完全否定というよりは、ギリシア的モデルとの関連性の問題や歴史的証拠のなさなどの理由で一旦放棄されたものと認識している。しかしイスラエル十二部族の起源や形態はいまだ謎で、ノート説に代わる学説も浮上していない。ノート説はまだ火種を残しているのかもしれない。

最後になったが、本書のもう一つのハイライトが、訳者解説の「古代イスラエルのアンフィクチオニー仮説をめぐる研究小史」である。ノート仮説の受容と発展の学問的経緯と、約百年も前の本書の邦訳をいま出版する意義をも知ることができ、非常に有益である。古代イスラエル史および旧約聖書学の基礎知識として必読の一冊である。

（みやざき・かおる 東京神学大学常勤講師）

（四六判・二七八頁・定価二九七〇円・教文館）

既刊案内 (2025年12月~2026年1月)

編・著・訳者	書名	判型	頁	定価(税込)	版元	発行日
崔 炳 一	植村正久と日本の教会 ——現代日本を植村正久と語る	A5	280	3,300	一麦出版社	12/7
滝沢克己 著 滝谷美佐保 編	中学生の孫への手紙 ——人生の難問に答えて	新書	128	1,320	ヨベール	12/10
鎌野善三	チャレンジ!デポジション	新書	256	1,650	ヨベール	12/10
マイスター・エックハルト 著 阿部善彦 訳 著	教 導 講 話 ——若き修道者のための言葉	B6変	280	1,980	ヨベール	12/16
濱 和 弘	傘の神学II 特 殊 啓 示 論 ——隠れた神からの語りかけ	四六	312	2,200	ヨベール	12/16
大 宮 有 博	キリスト教シオニズムとは何か	A5変	96	1,320	日本キリスト 教 団 出 版 局	12/16
越 川 弘 英	きのうの教会・あしたの教会 ——2025±X	A5	160	2,640	日本キリスト 教 団 出 版 局	12/17
上 田 光 正	バルト神学への道しるべ ——日本の教会の歩むべき道は	A5	312	4,950	日本キリスト 教 団 出 版 局	12/19
宮 本 久 雄	宮本久雄著作選集2 キリスト教思想 ——愛とケノーシスの間(あ わい)にて	A5	290	4,620	日本キリスト 教 団 出 版 局	12/22
N. T. ライト 著 前 川 裕 訳	新 し い バ ウ 口	四六	320	2,970	新 教 出 版 社	12/22
平野克己、吉村和雄編	神の喜び、ここに始まる ——マルコ福音書講解説教集	四六	568	3,190	教 文 館	12/22
森 田 安 一	ドイツ語圏宗教改革 ——ツヴィングリとルター	A5	472	6,050	教 文 館	12/22
嶺 重 淑	ウイリアムス神学館叢書VII 今さら聞けない!?キリスト教 ——新約聖書の祈りと倫理編	A5	232	1,980	教 文 館	12/22
キリスト教年鑑 編集委員会編 著	キリスト教年鑑 2025-2026	B5	1180	18,700	キリスト新聞社	12/23
川 中 子 義 勝	ドイツ・コラルの詩人たち ——J.S. バッハに耳傾けつつ	A5	358	4,950	教 文 館	1/7
芝 恭 子 訳 著 芝恭子著作集編集委員会編	楓の記憶、紡ぐ言葉 ——来日カナダ婦人宣教師報 告資料の翻訳と東洋英和女学 院での幼児教育	A5	336	2,970	教 文 館	1/23
関西学院大学神学部編	関西学院大学神学部ブックレット18 ディアコニアでつながる未来	A5	114	1,760	キリスト新聞社	1/20
日本クリスチャン・アカデミー 関西セミナーハウス活動センター	「戦争の時代」にしないために ——非暴力・平和主義を求めて	A5	246	1,650	キリスト新聞社	1/22

編・著・訳者	書名	判型	頁	定価(税込)	版元	発行日
大井 満 責任編集	聖なるキリスト者として生きる —— 2025 ケズィック・コン ベンション説教集	四六	190	1,650	ヨ ベ ル	1/20
上 林 順 一 郎	80 歳から創めるキリスト教 ——よく生きよく老いよく学ぶ	四六	128	1,540	日本キリスト 教 団 出 版 局	1/22
塩 谷 直 也	中 年 の 祈 り ——ページをめくる 装備を変 える	四六	144	1,980	日本キリスト 教 団 出 版 局	1/23
辻 学	NTJ 新約聖書注解 第 1 ペ ト ロ 書 簡	A5	258	4,840	日本キリスト 教 団 出 版 局	1/23
吉 平 敏 行	わたしは神の恵みを無にはしない ——ガラテヤ書の私訳と解釈	四六	180	1,760	新 教 出 版 社	1/23
ジョン・ディア 著 志 村 真 訳	道 を 歩 む ——十字架と復活に向かう非 暴力のイエスに従って	四六	216	2,200	新 教 出 版 社	1/24

※お詫びと訂正

本誌前号（3月号）の表紙及び24頁に誤りがありました。『神学と社会理論』（新教出版社）の訳者・原田健二郎氏のお名前を「健太朗」と表記しています。正しくは「健二郎」です。お詫びし訂正いたします。

持って生まれたことばを生きる

持つて生まれたことばを生きる



パウロ大先生を正面切って批判する過激で危険な書物が新約聖書に紛れ込んでいた?! ……それが藁の書簡と呼ばれた「ヤコブ書」。著者はギリシア語聖書本文に肉迫する(試訳)を丹念に行った上で、この書の魅力と隠された使信を丁寧に掘り起こす。強欲なグローバル資本主義によって踏み荒らされた現代社会において、神のロゴスに則って、然りは然り、否は否!とするキリスト者の在り方が明らかに! 四六判・二三四頁・一八七〇円

ヤコブ書

試訳・註・メッセージ

濱和弘著 特殊啓示論

普遍啓示論に続く第2弾



傘の神学Ⅱ 隠れた神からの語りかけ
「啓示された神の言葉である聖書」を、どのように解し、現代に読んでいけば良いのか。
好評発売中 四六判・三〇八頁・二二〇〇円

ポーラ・グッダー 中原康貴「訳」 レントのこころ

私を遣わしてください



異世界だが親しみがあがり、人を寄せ付けない人が人を惹きつけ、生気はないが生命を与えてくれる——荒れ野は、危険と救いの両方をもちあす二面的な場。レントは、二面的な荒れ野に足を踏み入れるように招いている。
教会暦手引書の第2弾! 四六判・二〇〇頁・一八七〇円

チャレンジ! デボーション!

鎌野善三「訳」 忽ち在庫僅少



日々の暮らし、そのすべての場が祈りの祭壇になる。スマホやクレジットカードを置き忘れてもその場で即、祈る。スパー銭湯でもガリラヤ湖畔のイエスを思えばありがたくて祈っちゃう! 日常のすべてがその場で祈りに変わる、ヨシミ流 デボーションライフの手引き。
新書判・二五六頁・一六五〇円
3刷 チャレンジ! 聖書通読 新書判・一六〇頁・一〇〇〇円

金子晴勇キリスト教思想史の例話集 Ⅲ 「共生」の神秘



キリスト教思想史を学ぶすべての人に、あなたも絵画を観るよう理解できる例話集! 「第3回配本」
新書判・二六四頁・一五四〇円

エックハルト 阿部善彦「訳」 若き修道者のための言葉

中世の神学者であり、霊性の巨匠が語るエックハルト版「君たちはどう生きるか」。本書は、エアフルトの修道院の院長であり、テューリンゲン地区における管区長代理である、説教者兄弟会のエックハルトが、若いドミニコ会士たちと行った諸々の講話である。
新書判上製・二八〇頁・一九八〇円

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用			02350-0-874
エッセイの木	980-0012	仙台市青葉区錦町1-13-6 エマオ1F	022-223-2736	022-302-6678	https://essainoki.jp/	shop@essainoki.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区新館3-2 千葉カリアセンタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vestia.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
待星堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taishindo-books.jimbo.com/	taishindo@jcom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス東京	169-0051	新都区早稲田3-18(A00ビル2F 通称専門)	03-3203-4137	03-3203-4186	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
東京キリスト教書店	112-0014	文京区目黒1-44-4 塚根ビル1F 日弁内(外販専門)	03-3260-5663	03-3260-5637		tokyo@nikkikan.co.jp	00130-3-60976
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.tuighte.net/~yokohama-us/index.html	sksch@mvva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	466-0045	名古屋市中区大須町1-16 日教キリスト教団 聖文舎内	052-680-8090	052-680-8091	http://nagoya-seibunsha.la.cococan.jp/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
バイブルハウス京都	606-0007	京都市北区新町2-18 日本基督教団 聖文舎内(外販専門)	090-5138-7020	075-320-1844		kyoto-ibs@bible.or.jp	01010-2-594
バイブルハウス堺	591-8023	堺市北区中百舌島町2-87 チャペルこつり2F	072-255-4970	075-255-4971		sakai-ibs@bible.or.jp	00160-2-18410
大阪キリスト教書店	552-0003	大阪市港区灘2-2-18 港ルネール教会1F	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osekacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店(聖燈社)	591-8044	大阪府堺市北区中長尾町2丁1-18	072-254-2233	共用		sakaixx@outlook.jp	00970-0-172228
神戸キリスト教書店	650-0025	神戸市中央区船生町4-5-2 神戸聖諭ATビル401	078-331-7569	078-945-9388		kobex@nikkikan.co.jp	00170-2-421390
広聖聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
リバーサイドブックス	779-1105	徳島県阿南市羽ノ浦町古庄大道/西13	090-8694-4986	050-3142-3017		ykwbtf3@gmail.com	16220-17974891
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/matsuyama_1007/mbs.html	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市中央区大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	904-2143	沖縄県沖縄市知花4丁目12-33	098-927-0220	098-938-1102	https://www.okinawacbs.net	info@okinawacbs.net	01790-4-152916

※一般書店関係の方は 日キ販売部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

福音と世界

2026年4月号

特集Ⅱフィールドで思考する

教会で、日本で、世界で（企画Ⅱ朝岡勝）

寄稿者Ⅱ石原知弘、山口光仕、和田悠、齋藤百合子、阿部伊作、中島宇

◆時評「乗っ取られる」ボンツファー（島田由紀）

◆連載「人物・日本キリスト教史（戒能信生）／ほ

やき牧師のさすらい説教録（富田正樹）／異端者

の世界航海（福岡揚）証言としての旧約聖書（田

島卓）／釈義ルカ福音書（山崎ランサム和彦）他

A5判・定価660円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyoy-pb.com

編集室から



「『バベットの晩餐会』は有名だからご存じだと思いますが……」と切り出された話題。筆者のためらいをよそに話が進んでいく。しかし、しばらくすると記憶の片隅で「その本持っているかも?」と思った。自宅を確認すると、美しい装丁の書籍が本棚で、ひときわ目立って収まっているのを見つけた。少し脱線になるが、このときほど装丁が大切だと思った瞬間はない。この装画でなかったら記憶に留まることはなかった。

仕事の打ち合わせの最中でお話を伺った2025年は、著者カレン・ブリクセン（別名アイザック・デイナーゼン）の生誕140年に当たる年だった。

とにかく早速、読み始める。美しいのは装丁だけではな

予告

本のひろば

2026年5月号

本・批評と紹介

（巻頭エッセイ）野口幸生「心を守る道の途上で」（書評）越川弘英著『きのうの教会・あしたの教会』、鎌野善三著『チャレンジャーデボーション』、ジョン・ディア著『道を歩む』他

く、本文ページにもこだわりの装飾が施されていた。それは物語全体にたどよう清涼感が、ビジュアル化されたように感じた。

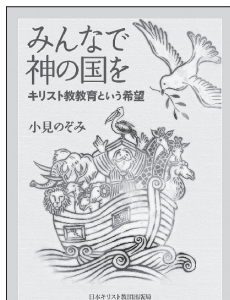
著者はキリスト教の影響を強く受けて育った人らしく、信仰心に満ちた作風になっている。しかし、ご紹介くださった方は、その中にも、キリスト教に反発する思い、そこから飛び出したい気持ちが隠されていることを感じるといふ。「信じたい気持ち」と「信じない気持ち」が交差する、そんな説明のつかない矛盾を抱えて教会に所属する自身が、共感を寄せる作家だという。

作中に登場するキリスト信者は、最初は模範的な信者なのかと思っていると、世俗的な考えに陥ったり、その考えを恥じたり人間らしい表情も見せる。そのまっすぐさが清らかさになり、心地よい読後感を残してくれた。（吉崎）

みんなで 神の国を

小見のぞみ

キリスト教教育という希望



2026年3月19日刊行予定

暴力と競争が世に満ちる今こそ、共に神の国を作る希望の教育を！キリスト教教育・保育の現場で働くすべての人に読んでほしい一冊。

◆A5判並製・148頁・定価1760円

小見のぞみの書籍発売中

『非暴力の教育
—今こそ、キリスト教教育を！』 定価1,760円

『聖書のお話を子どもたちへ』 定価1,540円

マルコによる福音書 説教準備と説教例

越川弘英 監修

石井佑二／伊藤大道／井ノ川 勝／上山耕平
大澤 宣／金田佐久子／川島直道／草地大作
久世そらち／小林よう子／齋藤 篤／篠浦千史
下田尾治郎／鈴木道也／高多新／辻 学
友野富美子／服部 修／平野克己／増田 琴
松本敏之／山田真理 執筆



2026年3月23日刊行予定

マルコ福音書の全体を45回で説教するための実用ガイド。聖書箇所を解説する「説教準備のスケッチ」と「説教例」を45回分収める。

◆A5判並製・304頁・定価3850円

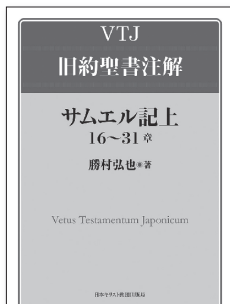
日本語で書き下ろす旧約聖書注解シリーズ、2冊同時刊行！

VTJ 旧約聖書注解

サムエル記上

16～31章

勝村弘也



2026年3月25日刊行予定

ダビデの即位からサウルの死までを扱う。各エピソードごとに鍵言葉や考古学的見解を鑑みつつ、テキストへの理解を深める。

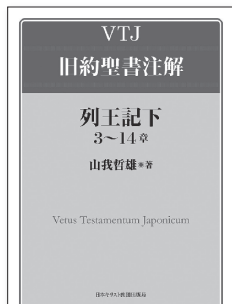
◆A5判上製・424頁・定価7260円

VTJ 旧約聖書注解

列王記下

3～14章

山我哲雄



2026年3月25日刊行予定

北イスラエル王国のオムリ王朝とイエフ王朝を扱う。その中心となるエリシャ物語も、編集や伝承の背景を鑑みつつ丁寧に解き明かす。

◆A5判上製・400頁・定価7040円

改革派説教

牧田吉和「著」

改革派神学の伝統に立つ、
待望の本格的説教教学教本！



教義学者として半世紀を超えて神学教育と伝道に携わってきた著者が、地方教会の説教壇という「生活の座」から書き上げた神学的説教論。伝統的なキリスト論的な視座に加え、聖霊の働きの独自性とその実践神学的意味に着目した、新しい時代の説教教学教本。

● A5判・500頁・定価6,600円

パウロと黙示

黙示的パウロの研究史と展望

J・デイヴィース「著」

浅野淳博「監訳」岡谷和作、大川大地、鈴木仰「訳」



パウロは「黙示的」神学者なのか？

パウロの終末論や救済論にユダヤ教黙示思想はどのような影響を与えたのか？ 聖書学者や神学者はパウロの黙示思想をどのように理解してきたのか？ 20世紀以降の研究史を概観し、聖書学と組織神学の対話の論点を整理した画期的な一冊。初学者から研究者まで必携の書。

● A5判・270頁・定価3,960円

3月の新刊 ● 価格表示は税込

教文館創業140年
記念限定復刊！



ギリシア語新約聖書釈義事典「全巻セット縮刷版」

H・バルツ、G・シユナイダー「編」荒井献、H・J・マルクス「監修」

新約聖書本文に現れる全ギリシア語語彙の文脈的・歴史的・神学的意味を解き明かす比類なき事典として、刊行以来多くの方々にご愛用いただいていたロングセラーを小型化・軽量化。

● A5判・1788頁・定価699,300円

教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
電話 03-3561-5549 (出版部直通)《呈・図書目録》

キリスト教の書籍やCD、グッズのご注文は(e-shop 教文館)
<http://shop-kyobunkwan.com/> まで！



本のひろば.com



一九五七年七月一日 第三種郵便物認可
二〇二六年四月一日発行 (毎月一回一日発行)
本 shop 第八二〇号 二〇二六年四月号

発行所 〒112-0014 東京都文京区関口「一四四」四 一般財団法人キリスト教文書センター
電話 03-3361-6511 振替 0017-0151-1679
発行人 金子和人 編集人 村上信児 印刷所 モリモト印刷
発売所 日本キリスト教書販株式会社 電話 03-3361-5670

定価七八円 (税抜七一円) (〒63円)
一年分二〇〇円 (送料共)